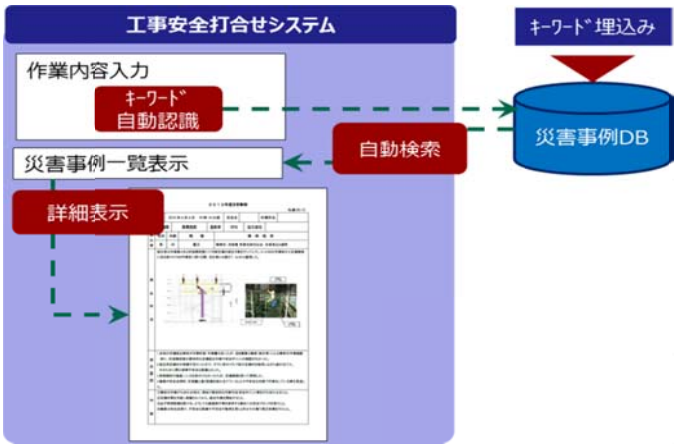
「工事安全打合せシステム」の概要と活用効果

大野　茂＊1・曽根巨充＊1

The Outline and Effectiveness of “Construction Safety Meeting system”

Shigeru OHNO, Hiromitsu SONE

システム活用状況



システム概要

図-1　工事安全打合せシステム概要

開発の目的

建築工事の作業所においてＩＣＴによる施工管理システムの活用が拡大している．その中でも，当社が開発した「工事打合せシステム」（以下，「旧システム」）は，建物の規模や構造に関わらず導入可能なため，活用する作業所が増えている．しかし，「旧システム」の電子化は 40%程度で，残りの 60%は手書きの運用となっており，全て電子化するなど機能に関する要望が，作業所から寄せられていた．

一方，当社の建築作業所に対する書類の削減についてのアンケートによると，全体のうち「労務・安全」に関する割合が半数以上を占めていた．さらに詳細に分類すると，特に「安全日誌」の作成に負担がかかっている割合が高かった．

これらのことから，新機能を加えたまったく新しい「工事安全打合せシステム」を構築し，作業所職員の工程調整，安全日誌作成，安全に関する指導など，業務負荷の低減を目的とした．

開発の概要

- 既存の紙書式を画面上に 100%再現し，サイン・捺印を含め，全ての項目の電子入力を可能にした．
- 書類自体の電子保管ができるため，印刷して手書き部分を書き加えて保管する作業負担が低減できる．
- 作業内容の入力は，パソコンだけでなくタブレットやスマートフォンでも可能である．
- 災害事例データベースと連携して，職長が作業内容を入力すると，関連する災害事例を自動検索して表示する機能を設けた．

導入の効果

- 紙面での回覧と異なり，各自が同時にシステム画面を閲覧して情報共有が容易となった．
- 職員だけでなく，職長においても「安全日誌」の書類作成の負荷が低減された．
- 安全教育に活用していた過去の災害事例は，別システムで検索・印刷・配布していた．今回の開発により，作業内容の入力と同時に災害事例の一覧が表示，ダウンロードが可能になったことで，安全意識の向上への寄与が期待できる．

＊1 本店 建築技術部 ＴＰＭ推進グループ